行き先を決めるロールプレイにおける「と」と「たら」の役割

木山 三佳

1.はじめに

条件表現の先行研究では、条件表現で接続されている二つの事態間の関連性、条件表現の個々の形式の意味・用法、発話機能、などが主な関心となってきた。談話との関わりにおける研究では、Haiman (1978)、Ford and Thompson (1986)、Akatsuka(1986)、水谷 (1990)、Schiffrin(1990)などの考察がなされてきた。

日本語母語話者の意味交渉の談話の特徴を捉えるために、会話者間の意思決定の場面のロールプレイの談話で「と」「たら」が使われている発話が、談話全体の中でどのような役割を持つかを考察する。また先行研究をふまえて、「と」と「たら」どちらの形式が選択されることが多いのかに注目して考察する。分析対象とした談話では条件の接続を表す「と」「たら」だけでなく、名詞＋「だと・だったら」や「そうすると」のような接続詞が多く使われており、本研究ではこれらの「と」「たら」も含めて研究の対象とする。

2.談話資料

2-1 被験者のデータ

被験者は18～23歳の大学生男女10人ずつ計20人。二つの課題とも、相手のAさんは同一人物（30代女性）で被験者全員と初対面。

2－2 課題の内容

被験者は説明係から条件カードを渡されて課題の説明を受ける。別室でAさんと一対一で話をしてもらう。

「食事会」の課題：自分の大学と相手の大学の留学生で合同の食事会をする場所を決める。自分の大学側の希望は、「できるだけ学校の近く」など３つあり、２つのレストランを自分の大学側のおすすめとして相手に提示する。

「合宿」の課題：自分の大学と相手の大学の合同のゼミ合宿をする場所を決める。用意

された５つの候補地から話し合って行き先を決める。

どちらの課題もすべて１５分以内に終わっている。テープレコーダーで録音された会話を書き起こした。

3.結果

談話資料では「と」「たら」を含む発話は以下のような役割を持つ。

①主題を表す「と」「たら」

主題を表す仮定条件「名詞＋なら」（丹羽2000）と同様に、「名詞＋だと」には主題を表す役割が有ると類推される。「名詞＋だと」の用例14例中11例が後件で否定的な評価をしていた。

J8-3　中華料理だと値段もしますからねー

② 談話の結束性を高める「と」「たら」

相手の発話を前件で主題とし、後件で意見を述べる。「と言うと」が6例「と言ったら」が4例あった。

J8-4　硬いものが駄目で、お肉が駄目というとやはり、これはちょっと（笑いながら）

J14-2　暑いところっていったら、房総とかも暑いんじゃないですか？

接続詞「そうすると」「そうしたら」で、ここまでのコンテクストを前提として後件で意見を述べる。

J1-4　はい、そうしたらこっちのカレー屋さんなんかいいかもしれないです。

J15-7　そうすると個人的に(笑いながら)美術館とかすきなんで@で結構箱根がいいなー、なんてー思ったりもするんですけどもー

③ 継起性にかかわる推論をみたす「と」「たら」

「～すると／～したら、…なる」という継起性に関わる推論が、理由づけとして用いられる。「たら」では仮定条件5例、確定条件7例あり、そのうち5例では「～するんだったら…」となっていた。

J6-4　ま、でも一人でもいたら、あれですよねー

J5-12　あんま若い人が中心でやるんだったら座敷っていうのはちょっと向かないかなーっていう

「と」を用いるものは後件が否定的な評価のものが6例あり、うち5例は「でも」で始

まるが相手への反論であるものは1例で残りは自分への反論である。

J18-10 あーでも二泊三日で京都にいくと移動ですごく時間かかっちゃうのかなあ

後件で意見を「…と思う」と表す時に「～を考えると」が7例「～を考えたら」が2例ある。

J20-1 発表する時間とかそういうの考えたりするとうーんDプランなんかゆっくりできると思うんですけど

J15-15 ゼミのこと考えたら箱根の方がいいと思うんですよ。

④ 暗示的な意見表出の「と」「たら」

いわゆる反事実的条件文で「もし（反事実）だったらいいけど…（事実なのでよくない）」と暗示的に意見を表すものが4例あった。

J11-8 ゼミじゃなくて遊びだったら、いつでも構わない

疑似条件文（坂原1985）の形式で後件は理由を表すことで、意見を明示せずに文脈効果によって相手に発話意図を同定させるものが2例あり、後件を「から」で理由節として意見明示している者も2例あった。

J10-1 焼肉屋さんだったら、みんなでワイワイ仲良くなれるー

J6-2 4000円だったら、普段のなんかサークルのコンパとかでもそれくらいかかるから、いいのかなあ

⑤ 発話の補足を促す「と」「たら」

「～たら」の後の話し手意見を聞き手が予測し、聞き手が同意を表しつつ発話を補足する事で発話ターンが受け渡される。

J2-9 それができるんだったら《シーフードでも良いですよね》

⑥ 連続使用による対比の「と」「たら」

「と」「たら」を連続使用して自分の意見を対比しながら意見表出の効果を高める。

J3-1 1,2時間だったら話は別だけど、15分30分だったらどうせ仲間内でくっちゃべっているから、近くなのか遠くなのかなんて気に入らないと思いますしね

J11-11 でもまあ勉強するんだったら、ここがポイントかもしれませんけどそれだったら軽井沢だとまあ涼しくて良い季節ですよね。

4.考察

行き先を決める談話は主に会話者双方の状況についての情報とその解釈の伝達によって

成り立っている。「条件表現は何らかの形で話者のトピックを支持している」とSchiffrin(1992)が言うように、「と」「たら」を含む発話には明示的に意見を伝達（後件が「～と思う」「～はいい」などの判断）するものが多く見られ、そうでないものも後件で「～できる」「～てしまう」など話し手のその事態に対する態度が反映する表現を伴うものが多い。暗示的なものでも、反事実的条件文のように前件が後件の成り立つ状況を制限することで背景化の効果をもたらし、聞き手に意図が伝達される。

資料とした談話では会話者間の伝達により相互認知環境を拡大し相互に類似の解釈を作り出すことで結論にいたっているが、「と」「たら」は話し手の意見を伝達する役割をもって、このプロセスに寄与していると考えられる。

「と」「たら」の違いを先行研究では、前件と後件の関連づけが客観的か主観的か、話し手の視点をどこにおくか、などで説明してきた。今回の談話資料では否定的な評価を表す時に客観性の強い「と」を選ぶ話し手がより多かった。話し手は「と」「たら」の選択においても、意見の伝達をさらに支えている可能性がある。

本研究で分析対象としたデータは、科学研究費補助金（基盤 B）を受ける研究「日本語学習者と日本語母語話者の談話能力発達過程の研究―文章・音声の母語別比較―」（代表者：水谷信子、課題番号：10480049）において収集したものの一部である。

参考文献

(1) 寺村 秀夫（1981）『日本語の文法（下）』日本語教育指導参考書 5 国立国語研究所

(2) 坂原 茂（1985）『日常言語の推論』東京大学出版会

(3) 水谷 信子（1990）「接続表現と談話の展開」『日本語シンポジウム「言語理論と日本語教育の活性化」予稿集』津田日本語教育センター

(4) 田中 寛（1992）「条件表現と発話機能―慣用的側面をめぐって―」『講座 日本語教育 27』早稲田大学日本語研究教育センター

(5) 益岡 隆志編（1993）『日本語の条件表現』くろしお出版

(6) 蓮沼 昭子（1993）「「たら」と「と」の事実的用法をめぐって」『日本語の条件表現』くろしお出版

(7) 丹羽 哲也（2000）「主題の構造と諸形式」『日本語学第 19 巻第 5 号』明治書院

(8) Haiman,J.（1978）" Conditionals are topics", Language 54（3）

(9) Akatsuka,N. (1986) "Conditionals are diecourse—bound", in E.C. Traugott, et al.,eds.,*On Conditionals,* Cambridge University Press.

(10) Ford,C. and Thompson,S.(1986)" Conditionals in discourse:a text-based study from English", in E.C. Traugott, et al.,eds.,*On Conditionals,* Cambridge University Press.

(11) Schiffrin,D. (1987) " Discourse Markers", Cambridge : Cambridge University Press

(12) ————, (1992)" Conditional as topics in discourse",*Linguistics 30*

(お茶の水女子大学大学院)